

TOTO

幼児用小便器

商品の機能が十分に発揮されるように、この施工説明書の内容に沿って正しく取り付けてください。取り付け後は、お客様にご使用方法を十分にご説明ください。

1 安全上の注意 (安全のために必ずお守りください)

取り付け前に、この「安全上の注意」をよくお読みのうえ、正しく取り付けてください。

- この説明書では商品を安全に正しく取り付けいただき、お客様や他の人々への危害や財産への損害を未然に防止するために、いろいろな表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

表 示	意 味
 注意	この表示の欄の内容を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

※物的損害とは、家屋・家財および家畜・ペットにかかわる拡大損害を示します。お守りいただく事項の種類を次の絵表示で区分し、説明しています。

	 は、してはいけない「禁止」内容です。 左図は、「禁止」を示します。		 は、必ず実行していただく「強制」内容です。 左図は、「必ず実行」を示します。
---	--	---	---

 注 意	
	修理技術者以外の人には絶対に分解したり、修理・改造は行わない故障、けがのおそれがあります。
	必ず2人以上で施工を行う 腰を痛めたり、陶器を落として破損する可能性があります。
	施工後必ず試運転し、各部に水漏れのないことを確認する 家財を汚す原因になることがあります。
	取り付け強度を保つため、下地に12mm以上のJAS規格合板相当を使用する 陶器が脱落し、けがをしたり、家財を破損させたり、水漏れの原因になります。

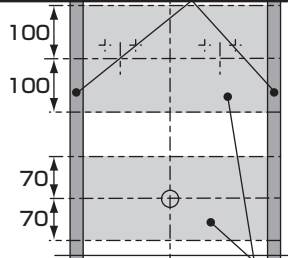
2 同梱部品の確認

名称	個数	略図	備考	名称	個数	略図	備考
袋ナット	1		小便器に同梱	目皿	1		小便器に同梱
ワッシャー	1			取扱説明書	1		施工説明書と同梱
パッキン	1			施工説明書	1		本紙

3 施工の前に

- ・水道工事は十分に工程を打ち合わせのうえ、行ってください。
- ・施工前に給水管、排水管の中のごみや砂などがあれば完全に除去してください。
- ・梱包前に通水検査をしていますので商品内に水が残っている可能性がありますが、商品には問題ありません。
- ・施工前に必ず同梱部品の確認を行ってください。
- ・取り付け強度を保つため、下地に12mm以上のJAS規格合板相当を使用してください。

合板は両端を柱、間柱などの建築の躯体にしっかり固定してください。

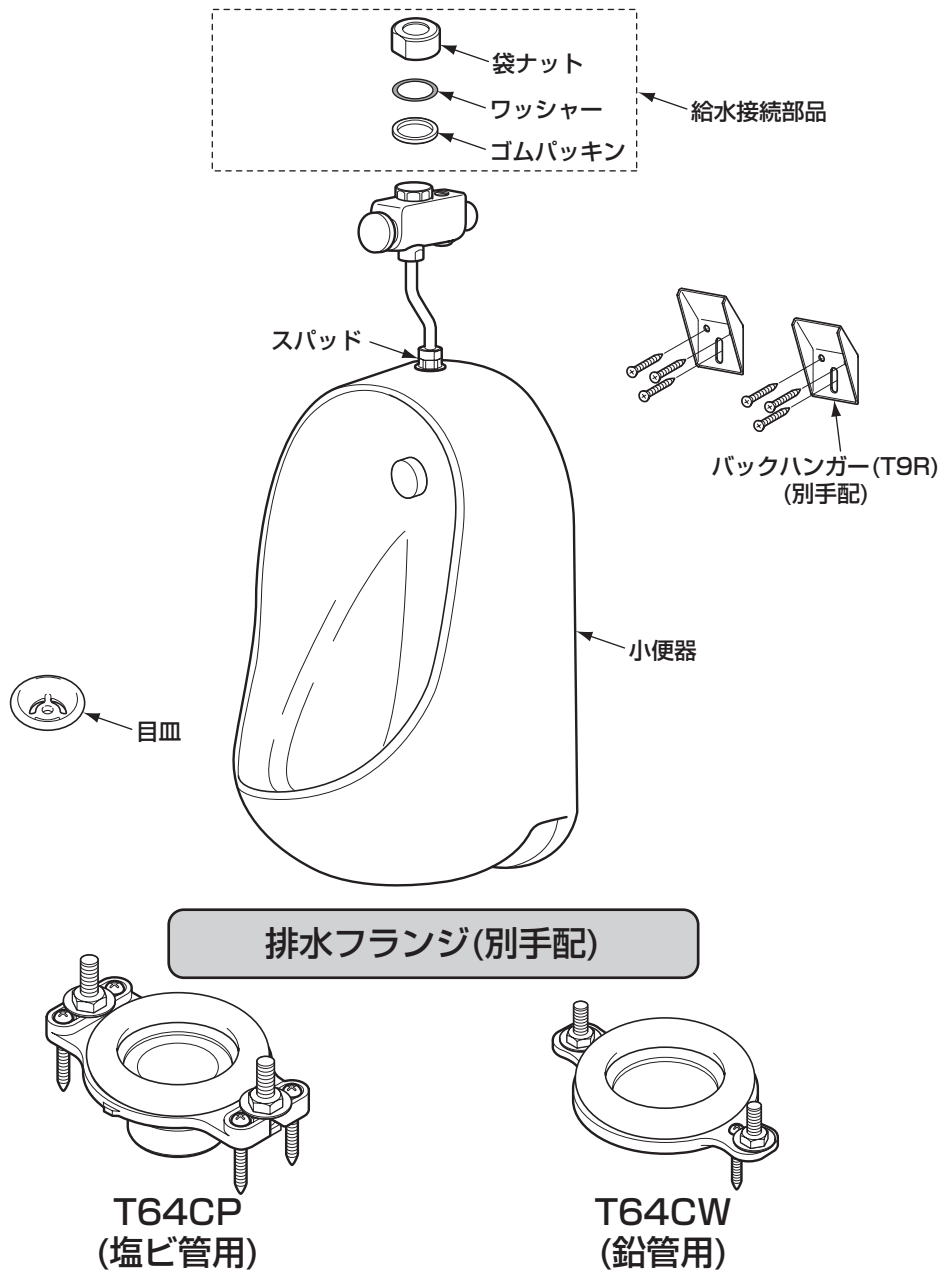


ハンガー部・排水ソケット部の周辺下地は12mm以上のJAS規格合板を使用してください。

※上記は最低工法です。推奨は壁一面合板です。

 注 意	
	●取り付け強度を保つため、下地に12mm以上のJAS規格合板相当を使用する
	●合板は両端を柱、間柱などの建築の躯体にしっかり固定する 陶器が脱落し、けがをしたり、家財を破損させたり、水漏れの原因になります。

4 各部の名称



5 施工の流れ

1. バックハンガーの取り付け



2. 排水フランジの取り付け



※排水フランジの取り付けは別途、排水フランジ同梱の施工説明書に従って取り付けてください。

3. 小便器本体の取り付け



4. 給水金具の取り付け



※給水金具の取り付けは別途、給水金具同梱の施工説明書に従って取り付けてください。

5. 作動・水漏れ確認



6. メジシールの充てん



7. 吐水量の調整



8. 取り付け完了

6 バックハンガーの取り付け



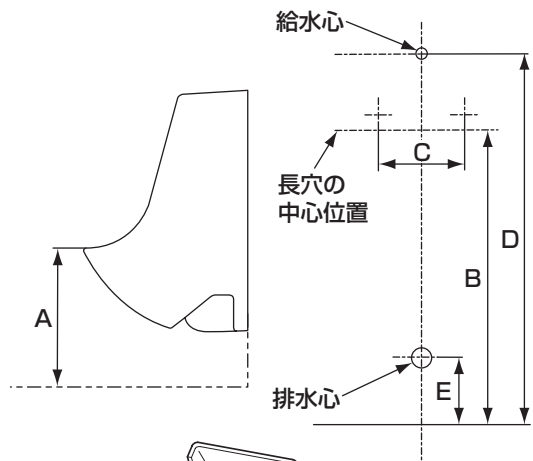
必ず実行

バックハンガーは最初から3本の木ねじで固定せず、長穴のみで仮止めし、小便器が取り付けを確認してから本固定する
仮止め用の下穴も長穴部のみとします

【バックハンガーの取り付け手順】

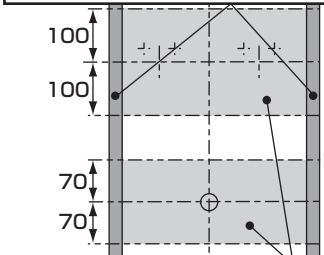
- ①当該商品の実使用者の年齢層に当てはまるリップ高さ(陶器高さ)から、バックハンガーのセット位置を下記表から選択します。
- ②下図取付位置に長穴のみでバックハンガーを仮止めします。

年齢	リップ高さA	ハンガー高さB	ハンガーピッチC	給水位置D	排水口位置E
1.5～2歳児	230mm	360mm	144mm	770mm	138mm
3歳児	260mm	390mm		800mm	168mm
4歳児	310mm	440mm		850mm	218mm
5歳児	330mm	460mm		870mm	238mm



【乾式工法の場合】

合板は両端を柱、間柱などの建築の躯体にしっかり固定してください。



ハンガー部・排水ソケット部の周辺下地は12mm以上のJAS規格合板を使用してください。

※上記は最低工法です。推奨は壁一面合板です。

⚠ 注意



必ず実行

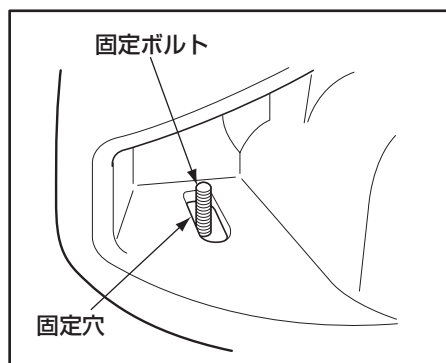
- 取り付け強度を保つため、下地に12mm以上のJAS規格合板相当を使用する
 - 合板は両端を柱、間柱などの建築の躯体にしっかり固定する
- 陶器が脱落し、けがをしたり、家財を破損させたり、水漏れの原因になります。

※図中の排水心は排水管取り出し位置を示したものです。

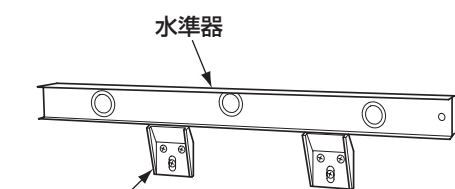
8-2

2. 排水フランジの固定ボルトと小便器固定穴の中心が合っているかを確認してください。中心がずれますと小便器を取り付けることができません。

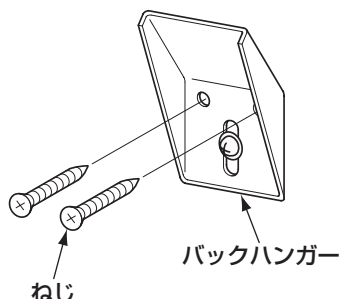
小便器本体



2. 小便器を取り外し、水準器などでバックハンガーの水平レベルを確認し、3本のねじでバックハンガーを本固定します。



バックハンガー水平レベル確認



7

排水フランジの取り付け

※排水フランジの取付方法は、別途排水フランジの施工説明書を参照ください。

8-1

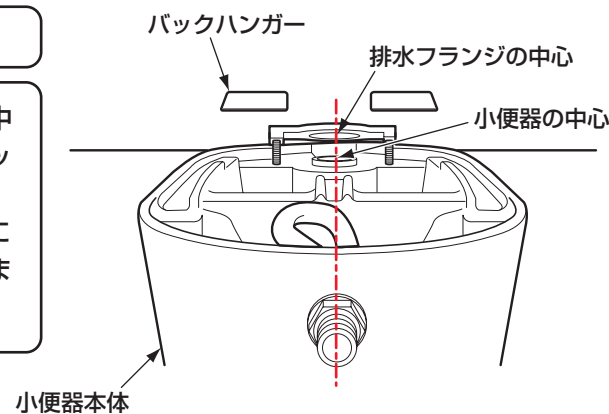
小便器本体の仮取り付け

1. 小便器本体をバックハンガーに掛け、所定の位置に取り付けられるようバックハンガー位置を微調整します。

【小便器本体の取り付け方】

施工ポイント

1. 小便器中心と排水フランジの中心をあわせて小便器本体をバックハンガーにかけます。
※小便器本体をバックハンガーにかけて排水フランジを固定します。



9

小便器本体の取り付け

【小便器本体取付手順】

1. 小便器排水口面・排水フランジのごみを取り除きます。

排水フランジ

小便器排水口面

2. 8-1と同じ要領で小便器を取り付けます。

- ①小便器排水口と排水フランジの中心をあわせて小便器本体をバックハンガーに掛けます。

- ②小便器固定穴と固定ボルトの位置関係を確認し、小便器を排水フランジに押し付けPシールをつぶします。

※排水フランジの固定ボルトが小便器固定長穴の中心にくるように小便器の位置調整を行ってください。小便器排水口と排水フランジの中心がずれますと小便器を取り付けることができません。

- ③小便器取り付け後、スパッド上部の水平レベルを確認ください。

※給水金具が取り付けられない場合があります。
※排水フランジから水漏れするおそれがあります。

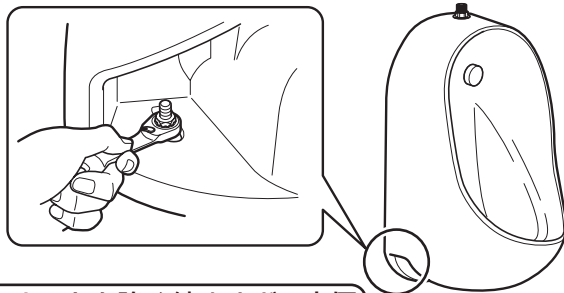
⚠ 注意



禁止

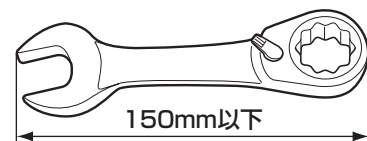
小便器を強く押し込みすぎない
小便器や壁が傷つくことがあります。

3. 排水フランジ同梱部品のワッシャーとナットで小便器を固定します。



※ナットの対辺は17mmです。
ナット締め付けには全長150mm以下の板ラチェットレンチを推奨します。

・ナットを強く締めすぎて小便器本体・排水フランジを割らないようにご注意ください。



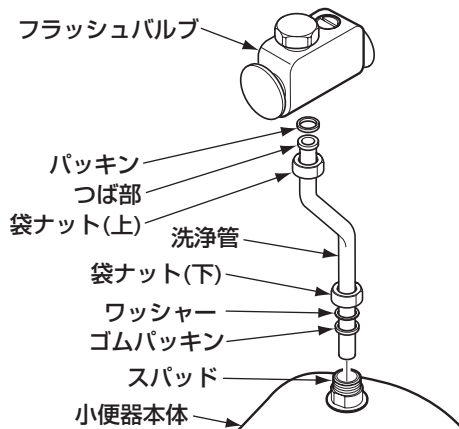
150mm以下

露出タイプの場合

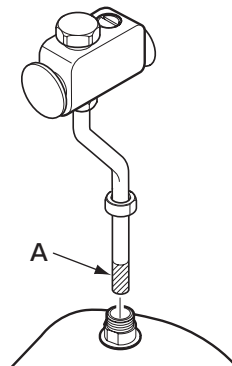
給水金具の取付方法は、別途給水金具の施工説明書を参照し、取り付けてください。
※洗浄管で小便器とフラッシュバルブをつなぐとき、フラッシュバルブを垂直に取り付けてください。

- ①洗浄管はつばのある方がフラッシュバルブ側です。
※洗浄管を反対に取り付けますと水漏れします。
- ②小便器側の洗浄管接続は現物合わせにて、差し込み代10～15mm程度を残して切断してください。
※洗浄管は斜線部分側（A）を切断ください。
※洗浄管の差し込み代が少ない場合は水漏れする場合があります。
- ③袋ナット（下）はスパッドを工具などで固定して締め付けてください。
※スパッドが共回りしスパッド下のホースが「キンク」し、水漏れ・洗浄不良の原因になる場合があります。

給水部品一覧

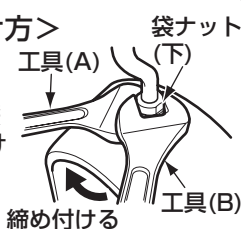


洗浄管切断箇所



<洗浄管の取り付け方>

工具(A)でスパッドを保持し、工具(B)で袋ナット(下)を締め付けてください。



⚠ 注意

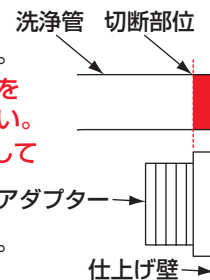


袋ナット(下)はスパッドを工具などで固定して締め付ける
スパッドが共回りし、スパッド下のホースが「キンク」し、水漏れ・洗浄不良の原因になることがあります。

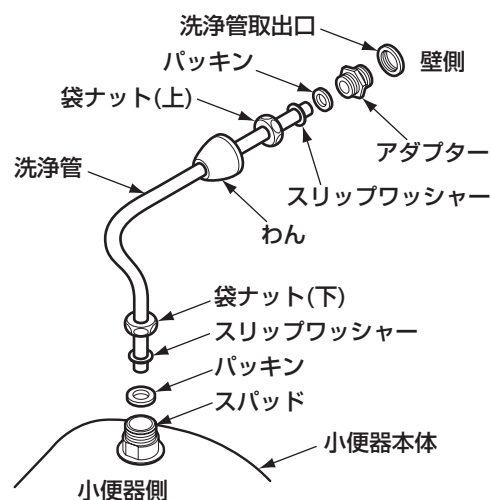
埋込タイプの場合

給水金具の取付方法は、別途給水金具の施工説明書を参照し、取り付けてください。

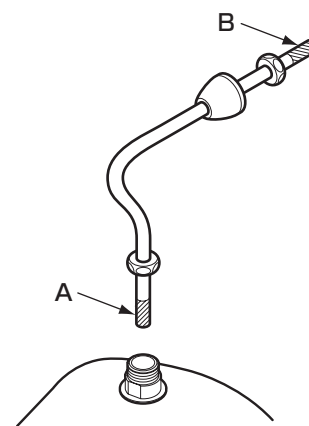
- ①洗浄管取出口のプラグを外し、洗浄管に同梱のアダプターを根元までねじ込んでください。
※壁からアダプター先端までの出しろが、11mm程度となるようにしてください。
- ②小便器側の洗浄管接続は現物合わせにて、差し込み代10～15mm程度を残して切断してください。
※洗浄管は斜線部分側（A）を切断ください。
※洗浄管の差し込み代が少ない場合は水漏れする場合があります。
- ③小便器側のスパッドに洗浄管を仮差した状態で、壁側の洗浄管を右図のように壁に仮置きして、洗浄管切断部位をけがいてください。
- ④壁側の洗浄管接続は現物合わせにて、差し込み代10mm程度を残して切断してください。
※洗浄管は斜線部分側（B）を切断してください。
※洗浄管の差し込み代が少ない場合は水漏れする場合があります。
- ⑤壁側の袋ナット（上）はしっかりと締め付けてください。
（参考：推奨トルクは約12N・m以上です）
- ⑥小便器側の袋ナット（下）は必ずスパッドを工具などで固定して締め付けてください。
※スパッド本体が共回りしスパッド下のホースが「キンク」し、水漏れ・洗浄不良の原因になる場合があります。



給水部品一覧

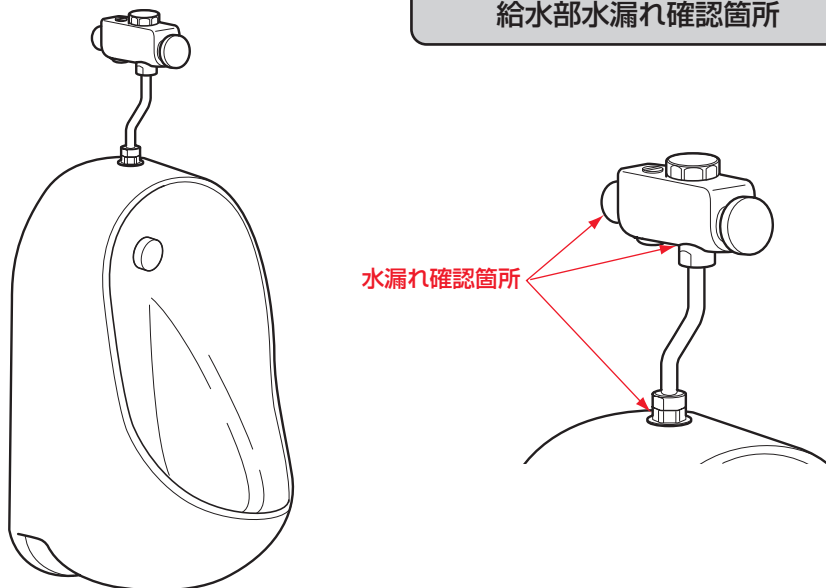


洗浄管切断箇所

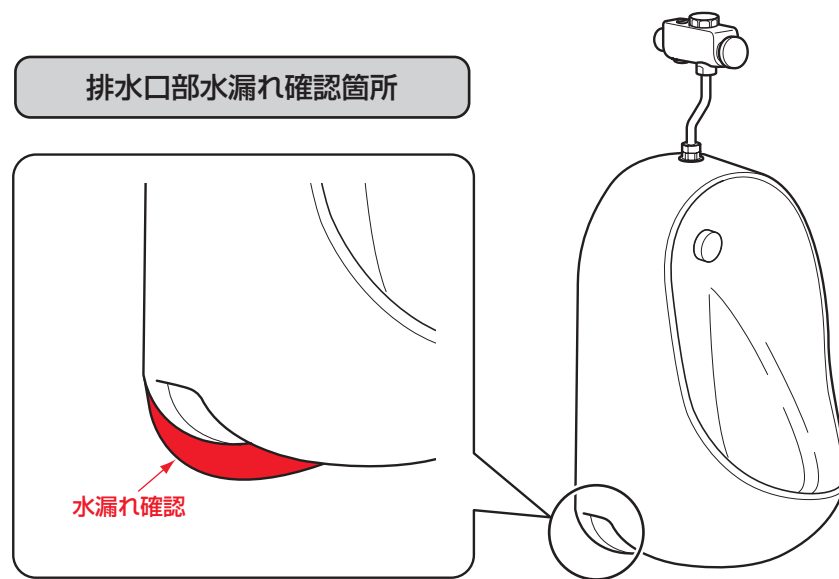


- ・配管接続の間違いがないことを確認後、通水します。
このとき、各接続部位からの水漏れがないことを確認してください。

給水部水漏れ確認箇所

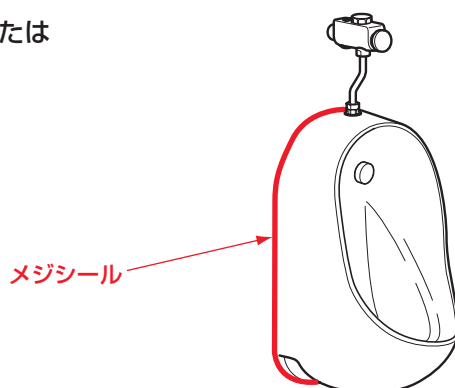


排水口部水漏れ確認箇所



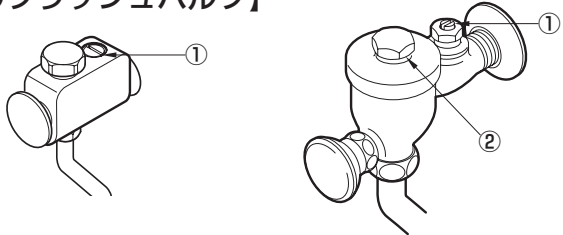
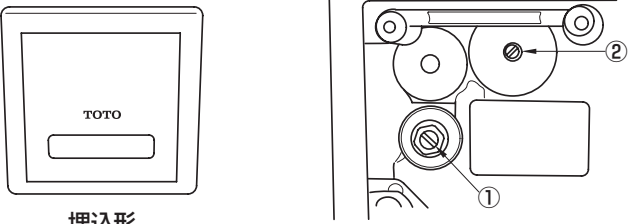
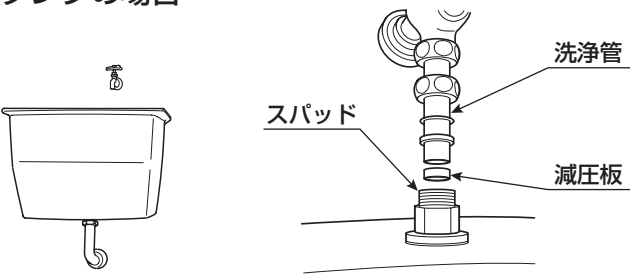
※水漏れ確認の際はフラッシュバルブの作動を数回行うようにしてください。

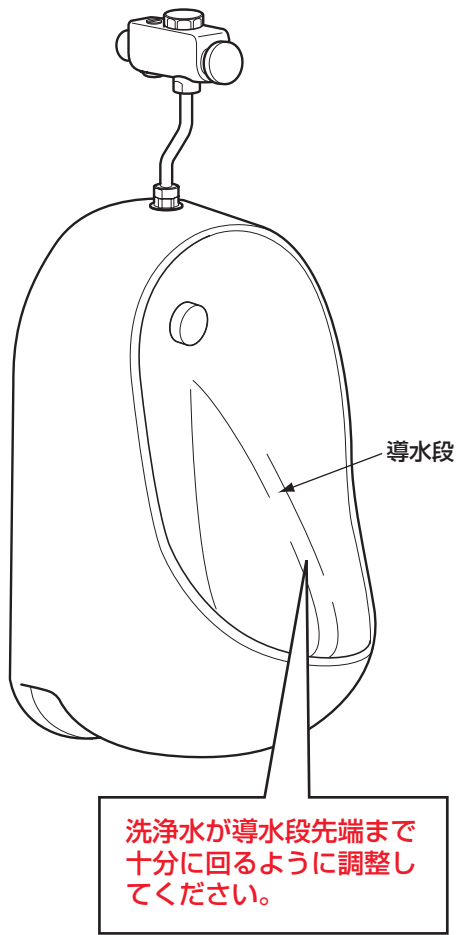
- ・壁と小便器にマスキングテープを貼り、小便器周りにメジシールまたはシリコン系シーリング材（防カビタイプ）を充てんします。



13 流量の調整

・スプレッター式小便器用オートクリーンU以外の組み合わせの場合は下記の手順で流量を調整してください。

露出タイプの場合 【手押しフラッシュバルブ】 	(吐水量の調節手順) 1) フラッシュバルブの①を全閉にします。 2) 水を流しながら徐々に①を開けていき、小便器の先端まで水が回るように調整します。 3) 吐水量を調整する場合は②の調節ねじを使い調整ください。
埋込タイプの場合 【オートクリーン】  埋込形	(吐水量の調節手順) 1) フラッシュバルブの①を全閉にします。 2) 水を流しながら徐々に①を開けていき、小便器の先端まで水が回るように調整します。 3) 吐水量を調整する場合は②の調節ねじを使い調整してください。 ⚠ 警 告 禁止 通電時は危険ですので端子台や配線接続部には絶対に手で触れないでください。感電するおそれがあります。
ハイタンクの場合  洗浄管 スバッド 減圧板	ハイタンクなど、連立洗浄システムを接続される場合は減圧板をスバッド(小便器側)に入れ洗浄管を挿入してください。 ※減圧板(品番:HM500)は別途手配してください。



※水勢が強すぎますと、洗浄飛沫・水飛びが多く発生する場合があります。

14 寸法図

